

## トリニダード・トバゴ\*

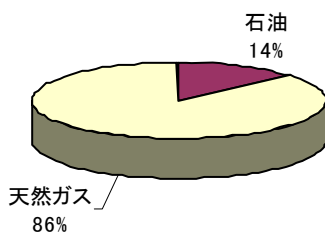
電力・ガス事業グループ 研究員 谷 幸次

### 1. サマリー

#### 1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー総供給量 : 12.706 石油換算百万トン (2005 年)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 : 8.74 トン (2005 年)
- (3) エネルギー自給率 : 247%
- (4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量 : 23.28 二酸化炭素百万トン (2005 年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量 : 17.84 二酸化炭素トン/人 (2005 年)
- (6) エネルギー別可採年数 : 原油 12.8 年、天然ガス 15.1 年

一次エネルギー供給構成 (2005 年)



(出所 : IEA 統計 2007 年版)

### 2. エネルギー政策のポイント

#### (1) エネルギー政策担当機関

トリニダード・トバゴにおけるエネルギー行政は、エネルギー・エネルギー産業省 (Ministry of Energy and Energy Industries: MEEI) が担当している。2008 年 2 月現在のエネルギー・エネルギー産業相は Conrad Enill 氏である。

#### (2) 基本政策

トリニダード・トバゴのエネルギー政策の目標は下記の通りである。

- ① 状況の変化に対応でき、持続可能な発展を促進できるような効率的な管理体制、法的規制および財政的な枠組みを構築する。
- ② 国内のエネルギー供給を確保する。
- ③ 国内原油生産を最大化する。
- ④ 現有の石油精製能力を有効活用するとともに、更なる能力増強を図る。
- ⑤ 石油化学産業など天然ガスを原料とする下流部門の発展および、ガスをエネルギー源とする他産業の発展を通じて、天然ガスの効率的かつ最適な現金化を図る。
- ⑥ 顧客に焦点を当てた効率的な小売市場の開拓を行う。

\*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

- ⑦ CNG など、クリーンエネルギー・代替エネルギーの積極的な導入促進を行う。
- ⑧ 環境保護・環境保全に取り組む。
- ⑨ 国際競争力を持つために、研究開発や国民への啓蒙活動を行う。

(3) 最近の動向

トリニダード・トバゴ政府が会計監査を委託した Ryder Scott 社によると、2007 年の同国の天然ガス埋蔵量（確認・推定・予想の合計）は 31.04Tcf（869Bcm）とされ、2004 年の 34.85Tcf（976Bcm）から 11%減少している。同報告書では、LNG 輸出プロジェクトも含めた天然ガス消費量が 4.5Bcfd（46Bcm）のペースで続くと仮定すると、同国の天然ガスは 12 年で枯渇する可能性があるとしている。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- ・ 2006 年に日本はトリニダード・トバゴから 32.1 万トンの LNG を輸入した。

2. 主要エネルギー指標

(2005 年)

(1)	一次エネルギー総供給量	12.706	石油換算百万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	8.74	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	1.14	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	247	%
(5)	エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	23.28	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	17.84	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	0	%
	石油	13.6	%
	ガス	86.2	%
	原子力	0	%
	水力	0	%
	再生可能エネルギー等	0.2	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	-144.0	%
(9)	石油の輸入依存度	-364.7	%
(10)	輸入原油の中東依存度	n. a.	%
(11)	原油輸入先 (2003 年)	第 1 位	n. a.
		第 2 位	n. a.
		第 3 位	n. a.

出所: (1)~(4) および (7)~(9)はIEA「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」2007 Edition、(5)~(6)はIEA「CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」(2007)